

銅輸出、スクラップとも減少

自動車は生産、住宅着工は持家、貸家分譲とも増加  
販売とも一桁増



横本 健一郎氏

■国際概況  
八月前半は  
中国預金準備率  
引き下げ観測  
や世界最大の  
チリエスコン  
デイタ銅山スト  
懸念などのプ

ラス材料もあつたが、七月の中国自動車販売台数が三カ月連続の前年割れとなったことや、七月の米生産者物価指数(PPI)が事前予想を上回りFRBの量的緩和と縮小(テーパリング)が年内に実施される可能性を嫌気しLME銅相場はDOWN、八月十五日時点で九四二九・五ドル(セツル)と月初価格より三〇七・五ドルDOWNの締めとなった。

後半はデルタ株の感染拡大への警戒感の強まりや、アフガン情勢をめぐる地政学的リスクなどからリスク回避のドル高となったことや、七月米小売売上高が予想以上の減少となったことなどのマイナス材料もあつたが、ジャクソンホールでのパウエルFRB議長講演が想定内の年内緩和縮小(テーパリング)開始だったことを受けたドル安、株高を好感しLME銅相場はUP、八月末日現在、後半スタート価格から八五・五ドルUPの九、四六二・五ドル。九月スタートの銅建値は二〇万円。

■前月の経済指標  
●前月のドル/円レート(TTS)  
一〇九・三二→一〇九・九五(円)

◆自動車生産台数

生産動態統計によると、七月の自動車生産台数は前年比二・二%増の六八万八、七七一台。

輸出二・五%増の三十四万九、八四一台。

◆自動車販売台数  
日本自動車販売協会連合会によると、八月の自動車販売台数(軽除く)は前年比四・四%増の二〇万六、五六八台。

◆住宅着工戸数

七月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比九・九%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比六・九%の増加となった。

新設住宅着工戸数は七万七、一八二戸。前年同月比九・九%増、五カ月連続の増加。

新設住宅着工床面積は六、三三二千㎡。前年同月比一三・一%増、四カ月連続の増加。季節調整済年率換算値では九二万六千戸。

前月比六・九%増、三カ月ぶりの増加。  
◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が三四・六%減の四万八、七六〇t、スクラップが三二・一%減の二万三、八二四t。

輸入

輸入は電気銅が前年比七五%減の一〇〇t、スクラップが四九・九%増の九八二t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会が公表した二〇二二年七月伸銅品生産動向速報値によると、七月伸銅品生産量は前年同月比四八・八%増加した。自動車メーカーが計画する今年九月からの挽回生産に向けた在庫積み上げが大きい。

日本電線工業会発の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比三二・八%増の五万五、五〇〇tであった。

■国内概況まとめ

【自動車生産】

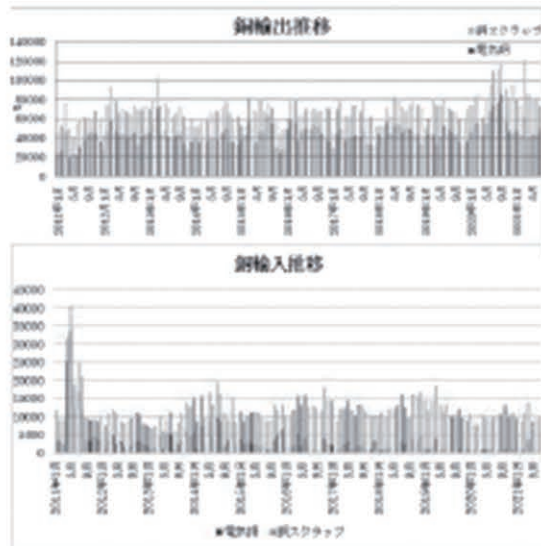
生産動態統計によると、七月の自動車生産台数は前年比二・二%増の六八万八、七七一台。

輸出二・五%増の三十四万九、八四一台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると、八月の自動車販売台数(軽除く)は前年比四・四%増の二〇万六、五六八台。

このうち乗用車三・七%増、貨物九%増、バス四・七%増。(六圓へ続く)



## LME銅・今月もコロナ感染の動向、米中の景気動向がカギに

(四圍より続く)

【住宅着工戸数】

七月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比九・九%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比六・九%の増加となった。

新設住宅着工戸数は七万七、一八戸。前年同月比九・九%増、五カ月連続の増加。

新設住宅着工床面積は六、三三二、千㎡。前年同月比二・一%増、四カ月連続の増加。

季節調整済年率換算値では九二万六千戸。前月比六・九%増、三カ月ぶりの増加。

【伸銅品生産】

日本伸銅協会が公表した二〇二一年七月伸銅品生産動向速報値によると、七月伸銅品生産量は前年同月比四八・八%増加した。自動車メーカーが計画する今年九月からの挽回生産に向けた在庫積み上げが大きい。

品種別では、銅糸は同比一〇〇カ月連続のプラス。七月で見ると、二〇〇八年に次ぐ第二位の生産量となった。引き続きディスプレイも合わせて半導体向けが好調。デジタル家電向けも良い。また自動車向けの在庫積み上げを進められている。一部、銅糸品薄の話題も見られるが、顧客から会員の伸銅メーカーに入る情報の中に銅糸の供給不足による生産減の話は出ていない。

黄銅棒は同比六カ月連続プラス。二〇一九年の同月実績を下回っているが、高水準を保っている。住宅設備関連が引き続き緩やかに回復している。また、閑散期の国内家庭用ガス機器に対して輸出向けが好調に伸びている。水栓金具のタッチレスタイプ向け需要好調が続く。

【電線出荷】

日本電線工業会発の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比二八%増の五万五、五〇〇t。このうち国内一・四%増、輸出が一三六・六%増。

【輸出】

電気銅輸出が三四六%減の四万八七六〇t、銅スクラップが三二二%減の二万三、八二四t。

【輸入】

電気銅が七五%減の一〇〇t、スクラップが四・九%増の九八二t。

【目途】

七月の自動車生産が二二%増。六月国内販売台数が前年比四・四%増。

生産の増加幅が極端に減少、半導体以外の中国からの部品供給の遅れ、同じく販売の増加率が減ってきている。今後増加していくか注視。

・七月伸銅品生産量は前年同月比四八・八%増加した。自動車メーカーが計画する今年九月からの挽回生産に向けた在庫積み上げが大きい。

更に増加するか注目。

・日本電線工業会発の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比二八%増の五万五、五〇〇t。

このうち国内一・四%増、輸出が一三六・六%増。輸出の増加率が大幅増加(内外ともにプラス)が続くか注視。

・銅輸出は電気銅、スクラップとも、内需旺盛のため減少。

・銅輸入は電気銅が内需玉から急減、スクラップは内需回復から急増。

【スクラップ増減予想】

流通(二次問題)在庫は、銅建値が一・二万円から一時一段下の一〇六万円まで急落した(その後一〇万円まで回復)ことから、発生が無く在庫薄。

需要面に關して、前月に続き中国コロナ感染拡大による部品調達の遅れからの自動車需要の減少から、生産は減少傾向にあるが、今のところ買い気あり。仮に急落してもその価格での販売に躊躇する問屋も多く、定期で入らないメーカーでは高値買いの傾向が続く。

【LME・為替予想】

今月も①コロナ感染拡大動向(デルタ株による)②米中の景気動向に左右される。

①に關しては

ワクチン接種によって冷まっていた欧米が新株(ミュー株)に再び感染拡大の危機に陥っている。ただ今のところ感染力は未知数でデーターもないが、ワクチン接種の更なる拡大から感染拡大が防げるのではないかと。

②に關しては

直近の景気指標で八月の中国製造業PMI(購買担当者景気指数)の結果は五〇・一、事前予想は五〇・二、前回は五〇・四、八月のコンファレンスボード米消費者信頼感指数の結果は一三・八、予想は一三・〇、前回は一二・五・一(二一九・一から修正)、中国の八月の財新・中国製造業購買担当者景気指数(PMI)が昨年四月以来、初めとなる五〇割れで、追加的景気対策が無ければ失速するのではないかと。

これらを踏まえた八月の銅価格は九〇〇〇・一萬〇、〇〇〇ドル(セツル)との予想。

ドル円値は一〇九円・一一二円(TTM)台を予測。

銅建値に關しては一〇二万円、一一五万円程度と予測している。